

応急手当

心肺蘇生法

倒れている人を発見したら
反応があるかないかを調べる



- 周囲の安全を確認し、近づく。
- 手で肩を軽くたたきながら呼びかける。

ない
→

助けを呼ぶ
119番通報とAEDの手配

大きな声で協力を求めましょう。

そのあなた119番通報をしてください！
AEDを持ってきてください！



OK
↓

呼吸があるかないかを調べる



- 10秒以内に
胸とお腹の動きをみる。
- 胸とお腹の上がり下がりを見て呼吸の確認をします。

ない
※普段どおりの呼吸がない
※呼吸があるかどうか分からない

人工呼吸



- 気道確保をした状態で鼻をつまみ、1秒かけて吹き込む。計2回実施します。

※人工呼吸を行う技術と意思がある場合

胸骨圧迫



両手を重ね、手の付け根を「胸の真ん中」におき30回続けて圧迫する。胸が約5cm沈むまでしっかりと圧迫する。圧迫のテンポは1分間に100～200回で、可能な限り中断せずに、絶え間なく行います。

以降、胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返します。(人工呼吸をしない場合は、胸骨圧迫のみを継続します)

AEDの使い方

1 AEDを傷病者の横に置き電源を入れる

- 機種によって、ふたを開けると電源が入るタイプと電源ボタンを押すタイプがあります。



2 電極パッドを貼る

- 傷病者の衣服を取り除き、胸をはだけます。
- 電極パッドの袋を開封し、電極パッドのシールをはがし、粘着面を傷病者の胸部にしっかりと貼り付けます。
- 貼る位置は電極パッドに絵で表示されています。



- ！
注意事項
- ・傷病者の胸が汗や水で濡れていないか
 - ・胸に貼り薬（ニトログリセリンなど）はないか
 - ・心臓ペースメーカーや除細動器が体内に埋め込まれていないか（未就学児には小児用パッドを用いる）
- 小児用パッドがなくやむを得ない場合は、成人用パッドを代用する。

3 心電図の解析をする

- 傷病者から離れるようにとの音声メッセージが流れたら、「みんな、離れて！」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認します。



4 電気ショックが必要な場合

- AEDが心電図を自動的に解析し、電気ショックが必要な場合には、「ショックが必要です」などの音声メッセージが流れ、自動的に充電が始まります。充電が完了したら、「ショックボタンを押してください」などの電気ショックを促す音声メッセージが流れますので、再び「みんな、離れて！」と注意喚起し、誰も傷病者に触れていないことを確認してから、ショックボタンを押します。「ショックは不要です」などの音声メッセージが流れた場合、ただちに胸骨圧迫から心肺蘇生法を行ってください。



《お問い合わせ先》 消防本部 救急指令課 救急係 ☎ 53-0119 FAX 53-3636



知っておきたい応急手当

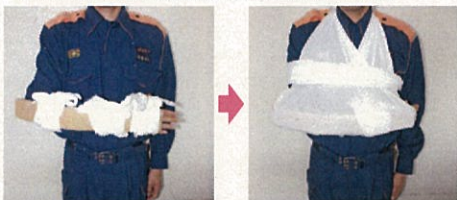
三角巾の使い方

- ひじに三角巾の頂点が来るように当て、両端は首の後ろで結び、肩からつる。頂点は内側に折り返す。



骨折

- 骨折部位に副木などを当てて固定し、三角巾でつる。さらに包帯などで腕が動かないように体幹に固定する。



- 副木の代わりになるもの



雑誌類

段ボール

出血

- 清潔なタオルやガーゼなどを傷口に当て、その上から直接手で圧迫する。
- 包帯があれば、ガーゼやハンカチの上から巻く。
- できるだけ傷口を心臓より高くしておく。

※ 応急手当をするときは、感染予防のため血液に直接触れないよう、ビニール袋などを使用する。

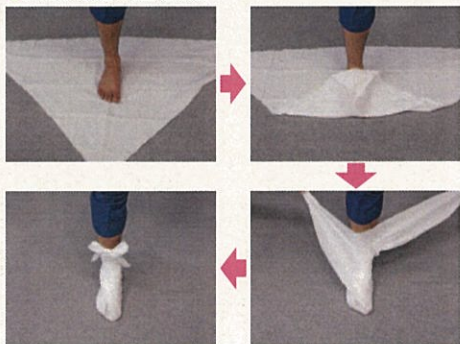


やけど

- 服が燃えるやけどの場合は、服を着たまゝの状態ですぐに水をかける。
- やけどが広範囲の場合は、ホースやバケツで水をかけるか、濡れた清潔なシートなどでやけどをしたところを包んで冷やす。

ねんざ

- 足首やひざなど関節をつなぐじん帯や血管を傷つけた状態で、腫れや疼痛（とうつう）が起こるため、まず患部を濡れたタオルや冷湿布で冷やして安静にする。
- 三角巾を使った固定方法



打撲

- 皮膚に傷があるときは、水道水などで洗い、ガーゼを当てて包帯をする。
- 腫れてくるようなら、包帯の上から氷のうなどで冷やす。※ 腫れがひどくなるようなら医療機関を受診しましょう。

脱臼

- 肩やひじなど関節がはずれた状態で、関節が動かなくなり激痛が起こるので、冷やして三角巾や包帯などで患部を固定し、医療機関へ。
- ※ 突き指などで脱臼した場合も、骨折や軟骨の損傷をともなっているおそれがあるので、固定して医療機関へ。変形した状態を元に戻す必要はありません。

のどに異物がつまった

①せき込ませる

自分のせきで異物を吐き出させるのが最も有効。周囲の人は「せきをして!」と言って励ます。

②背部叩打法

傷病者の後方から、手のひらの根元で左右の肩甲骨の間を力強く何度も連続して叩く。



乳児の場合

片手に乳児をうつ伏せに乗せ、手のひらで乳児の下あごを支えつつ、頭を体よりも低く保ち、もう片方の手のひらの根元で肩甲骨の間を数回強く叩く。



③ハイムリック法（腹部突き上げ法）

傷病者の後ろにまわり、片方の手で握りこぶしを作って傷病者のみぞおちの少し下に当てる。もう一方の手で握りこぶしを握り、手前上方に向かって4～5回圧迫するように突き上げる。※ 妊婦や乳児にはこの方法は行わない。



応急担架の作り方

①毛布を使う

毛布の3分の1のところに棒を置いて、毛布を折返して作ります。



②上着を使う

図のように、2本の棒に上着を通します。



両手で棒をつかんだまま服が裏返しになるように脱ぎます。

